

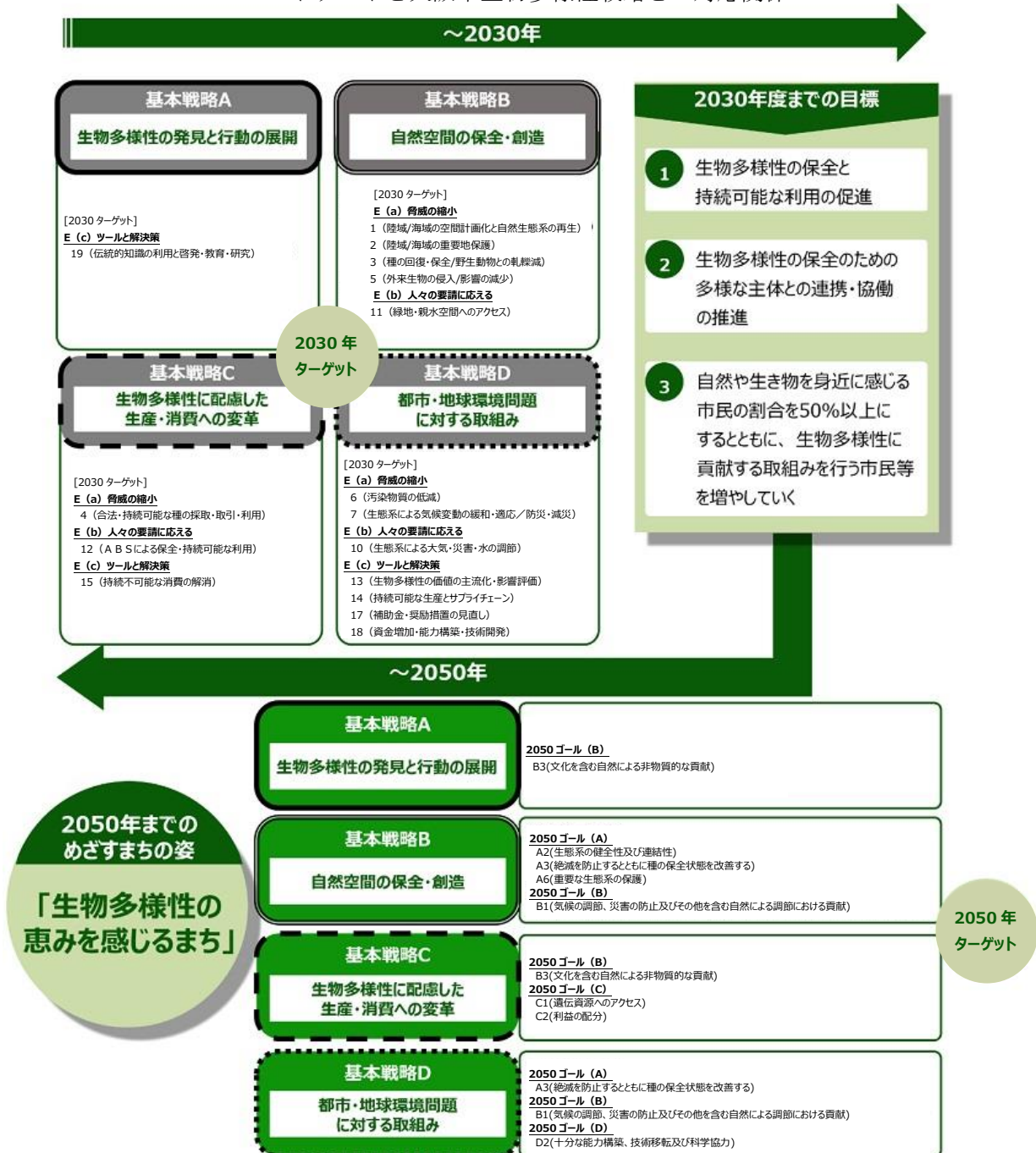
6 「2020年以降の世界的な生物多様性の枠組 0.2 ドラフト」と大阪市戦略との関係

ポスト愛知目標については、「2020年以降の世界的な生物多様性の枠組 0.2 ドラフト（以下、ドラフトという）」として提示されています。

大阪市では、大阪市生物多様性戦略の第4章に記載の4つの「基本戦略」に基づく12の「方針」、50の「具体的施策」により、ドラフトの「2050ゴール」の(A)～(D)及び「2030ターゲット」のE(a)～(c)に向けて、取り組めます。特に、G20大阪サミットで確認された地球規模の環境課題をふまえた、気候変動対策や循環共生社会の形成などの取組みや、SDGs 未来都市として、SDGs達成に向けた取組みを促進していきます。

なお、今後 COP15 での決定や生物多様性国家戦略の策定など、今後の社会情勢変化等を勘案し、適宜見直しを行うこととしています。

《ドラフトと大阪市生物多様性戦略との対応関係》



出典：Annex 2020年以降の世界的な生物多様性の枠組の0.2ドラフト（仮訳）及びレビュー用のポスト2020生物多様性枠組（GBF）のモニタリングに関する枠組の案（仮訳）をもとに作成

7 用語集（50音順）

あ行

愛知目標（はじめに,P5,6,9,10,資-1,資-26）

2010年10月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された世界目標。2020年までに生物多様性の損失を食い止めるための緊急かつ効果的な行動をとることが合意され、各国に求められる行動が20にまとめられている。2020年以降の新たな目標については、COP15で決定される予定となっており、2021年3月現在、2050年までに自然との共生という共有ビジョンの達成を確実なものにするための野心的な計画として「2020年以降の世界的な生物多様性の枠組の0.2ドラフト」が提示されている。

維管束植物（P24,資-5,資-18,資-23,資-24）

維管束と呼ばれる通道組織（植物の水分や養分の通路となる組織）を有する植物の総称。具体的には、シダ植物及び種子植物（裸子植物、被子植物）をいい、菌類、藻類、コケ類などと区別される。

遺伝子組換え生物（P53）

遺伝子組換え技術（組換えDNA技術）によって生み出された生物のこと。遺伝子組換え技術とは、ある生物の遺伝子（DNA）を人為的に、ほかの生物の染色体などに導入する技術。この技術により、その生き物に新しい能力や性質を持たせたり、ある機能をなくしたりさせることができることから、食品生産を量的・質的に向上させるだけでなく、加工特性などの品質向上に利用されている。

おおさか環境科（P38）

小中学校の授業の中で使用するための副読本。環境省作成の「授業に活かす環境教育」の体系図等を参考に、大阪府が子どもに学習してほしい内容を「生物多様性」「循環」「地球温暖化」「エネルギー」「都市環境保全」の5つの分野に分類。5つの分野それぞれで、小学校3・4年生→小学校5・6年生→中学生と、発達段階に応じた内容を学習いただけるよう作成し、大阪での状況や対策など、大阪独自の内容を中心として掲載している。

おおさか環境ネットワーク（P40）

「持続可能な未来を子どもたちへ」という理念のもと、大阪市内を活動拠点とする環境保全活動や環境教育など環境活動を行う市民団体、環境NGO/NPO、事業者などにより構成される、大阪府環境局が立ち上げたネットワーク。各主体間の連携と協働のもとで、環境問題解決に向けた行動を実践するための取組みを進めている。

大阪市エコボランティア（P35,36,資-25）

大阪市へ申請することにより登録される、地域における環境保全活動（地球環境保全、公害の防止、生物の多様性の保全等の自然環境の保護及び整備、循環型社会の形成その他の環境の保全）に対し、ボランティアとして運営補助や技術支援などを行い、市域における環境保全意識の高揚を図ることを目的として活動を行う者。

大阪市環境基本計画（はじめに,P4,6,資-2）

1995年4月に施行した「大阪市環境基本条例」は、その理念として「現在及び将来の市民が安全で健康かつ快適な生活を営むことができる良好な都市の環境を確保すること」を定めており、この理念を実現するため、条例第8条に基づき「環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境の保全及び創造に関する基本的な計画」として2019年12月に定めたもの。2019年度から2030年度までの計画であり、「すべての主体の参加と協働」のもと、環境施策の3本柱として、「低炭素社会の構築」、「循環型社会の形成」、「快適な都市環境の確保」に取り組み、「地球環境への貢献」を果たしていくことによって、「SDGs達成に貢献する環境先進都市」をめざしている。

大阪自然史フェスティバル（P40）

大阪周辺の自然に関わる様々な団体が集まり、大阪の自然のおもしろさ、活動の楽しさを伝える場として、「自然派市民の文化祭」をテーマに2003年に初めて開催された。その後、毎年テーマの異なるフェスティバルが開催されている。近年では、企業の協賛・協力を得て、NPOが主催する同種イベントとしては国内最大級のフェスティバルとなっている。

大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（P4,58,62,資-2,資-26）

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、大阪市の自然社会的条件に応じて温室効果ガスの排出の抑制などを進めるために策定した計画。

大阪市地球温暖化対策実行計画〔事務事業編〕（P63,資-26）

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、大阪市の事務事業に関して、温室効果ガスの排出の抑制などを行うために策定した計画。

大阪市地球温暖化対策推進本部（P82）

大阪市域における市民や事業者などの活動及び大阪市の事務事業に伴って排出する温室効果ガスの意欲的な削減並びに気候変動の影響への対処に向けて、全庁的に地球温暖化対策を総合的かつ強力に推進するために設置した大阪市の内部組織。この推進本部のもとに、大阪市地球温暖化対策の推進に関する課題の調査及び検討を行うため、区域施策編推進プロジェクトチーム及び事務事業編推進プロジェクトチームを設置している。さらに、両プロジェクトチームのもとに、生物多様性保全の推進のため、生物多様性保全推進ワーキンググループを設置している。

大阪市市内環境管理計画（P63）

大阪市が独自に取り組む環境マネジメントシステムで、大阪市の事務事業の実施にあたって、全庁的な推進のもと、温室効果ガス排出削減など環境への負荷の低減に取り組んでいる。

おおさか生物多様性施設連絡会（P40）

2016年度に大阪府内の博物館や水族館などの施設連携のもと、官民あげて生物多様性の普及啓発及びその実践活動を促進することを目的として設立した連絡会。

大阪生物多様性保全ネットワーク（P40,資-5）

大阪府内における生物多様性保全のため、行政、研究機関、NPOなどの相互連携を図る組織として、2012

年3月に設立された。ネットワークでは、レッドデータブック専門部会、普及啓発専門部会、街と里の連携推進部会を設置し、府内の生き物の現況把握や、希少種及び保護すべき環境についての考察、普及啓発イベントの企画・運営、情報発信などの取組みを行っている。

おおさか生物多様性リンク (P38,40,資-25)

大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センターと学校、企業、行政機関等の団体がつながり（リンク）を構築し、相互に協力し合うことで、生物多様性の保全や利活用を一層推進することをめざす取組み。

大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム（大阪 HITEC） (P59)

民間企業、大学、大阪府、大阪市、環境 NPO など構成されるコンソーシアム（共通の目的に取り組む産学官民の連合体）であり、「産学官民によるパートナーシップの構築」、「知見の収集と整理」、「技術開発」、「普及啓発」などを通じ、ヒートアイランド現象緩和への貢献をめざした活動を行っている。

おおさかヒートアイランド対策推進計画 (P59,資-26)

2015年3月に大阪府が大阪府とともに、ヒートアイランド対策の基本的な考え方や目標、取組み内容を定めた計画。計画期間である2025年度までに、「住宅地域における夏の夜間気温を下げることにより、地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日を2000年より3割減らす」とともに、「屋外空間における既存のクールスポットの活用や創出をすることにより、屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善する」ことをめざしている。

おおさかプラスチックごみゼロ宣言 (P58,60,資-4)

府民・市民や企業等と連携し、海洋プラスチック汚染の実態の正しい理解を深めるとともに、使い捨てプラスチックの削減や3R（リデュース、リユース、リサイクル）のさらなる推進、プラスチックごみのポイ捨ての防止、紙等のプラスチック代替品の活用など、プラスチックごみゼロに向け取組みを行うことを盛り込んだ宣言。

大阪ブルー・オーシャン・ビジョン (P58,59,60,66,資-1,資-26)

社会にとってのプラスチックの重要な役割を認識しつつ、改善された廃棄物管理及び革新的な解決策によって、管理を誤ったプラスチックごみの流出を減らすことを含む、包括的なライフサイクルアプローチを通じて、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することをめざす世界共通のビジョン。

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画 (P58,59)

SDGsの理念を取り入れるとともに、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向けた計画等を反映させた実行計画として令和2年度に策定予定。

大阪府レッドリスト 2014 (P25,26,29,43,資-6,資-7,資-9,資-10,資-11,資-16,資-17,資-18,資-21,資-22,資-23)

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生動植物などについて、絶滅への危険度に応じてランク付けしたもの。「大阪府レッドリスト 2014」は、大阪府が、府内に生息・生育する保護上重要な野生動植物の現状を府民の方々に知っていただき、豊かな自然環境の保全や野生動植物保護を進めていくための資料として、2014年に取りまとめたもの。